

2022（令和4）年度 事業計画書

社会福祉法人十字の園

2022（令和4）年度 事業計画基本方針

社会福祉法人十字の園 理事長 鈴木 淳司

十字の園理念 「夕暮れになっても光がある。（旧約聖書ゼカリヤ書 14 章 7 節）」

理念について

初代理事長 鈴木生二氏が、十字の園の仕事を始めるにあたって、何によって仕事をし、何を目指したいか、と言う時にこの言葉が選ばれました。

この言葉は、旧約聖書ゼカリヤ書 14 章 6 節～9 節がひとまとめになった言葉です。

7 節～9 節に「その日」という言葉が 3 つ繰り返されています。これは、旧・新約聖書を通じて終末の事実と終末のできごとを表す言葉です。

人にとっての終末とは「終わり・死」です。しかし、キリストを通じて神様の側から見ると終末は、「終わり・死」ではなく、「永遠の命」、生や死と関係のない「永遠」の存在の世界です。この「永遠の世界」を私たちは、どこにあるだろう、どこかにあってほしいと考えますが、私たちは、それを知りません。けれども聖書は、イエス・キリストの恩寵の光の中に「実在」するといえます。

もし、世界がその「実在」する場所であるならば、すべての人々に暖かくて安全な住宅があり、栄養のある食べ物が十分にあり、自分らしさを発揮する仕事もあり、よい医療サービスもあって、愛すべき友人や家族に囲まれていることでしょう。日常のストレスもなく、犯罪も苦悩もないことでしょう。すべての人が充実した意味のある人生を送っています。

ところが世界はその「実在」する場所とはいえません。個人の権利が奪われ、それぞれの個性を発揮する機会を奪われ、命の意味が失われています。私たちは、この様に不完全な社会で生まれる矛盾、苦悩、悲しみと向き合い、福祉の業を通じて理念の示す「実在」する世界の実現を目指します。

私たちは、この様に理念が指し示す「実在」する世界の実現をめざし、「夕暮れになっても光がある」という言葉の下に十字の園に呼び集められています。

理念が聖書から引用されているのは・・・

十字の園は、キリスト教信仰を持った方々により、イエスに倣う奉仕の業を通じてはじめられました。その精神は、すべての人が、神のゆたかな恩恵のなかにあり、この上なく貴い人格であるとするキリスト教的な愛の人間観。その神の愛のうちに包まれて、この世に生きる喜び。十字架の信仰により、一切の罪から解放され、自由な者とされた感謝。復活の信仰による永生の希望。そして献身への召命。

この感謝と自由に立脚して、神と隣人のために生き抜く生活こそ、十字の園の精神であり、私たちは、その精神に立って事業運営を行っていく事を使命としているからです。

これらのことから、私たちは理念の目指す世界の実現のために、以下のことを基本姿勢とします。

十字の園基本姿勢 「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」

基本姿勢について

「人格を尊重する」とは、

福祉は人と人との仕事です。「人格」はその人の生きてきた年月すべての結実です。一人一人の生きてきた昨日までの日を大切にするとともに、新たに積み重ねられる一日一日の中で、個人としての権利を守り、固有の能力を活かし、一人一人を大切にすることです。

「生きる喜び」とは、

生きている喜びは、自分の権利が守られ、固有の能力を活かし、自分らしく生きることで、自分が社会に受け入れられ、存在が認められ、必要とされることではないでしょうか。職員、利用者の区別なく生きている事の喜びを共に喜びます。

「生きる自由」とは、

我がまま、自分勝手に生きることが本当の自由ではありません。生きる自由とは、自分の尊厳と権利が守られ、自己決定により自分らしく生きることではないでしょうか。そこには、職員、利用者の区別なく、お互いが尊重され、自己決定を大切にすることで、信頼し合う安心感があります。

「生きる希望」とは、

生きる中には喜びも悲しみもあり、健康な時も病気の時もあります。たとえ身体的・精神的に弱さがあっても、権利が守られ、もてる能力を発揮し、信頼できる仲間と生きる中に夢と希望があり、生きていて良かったと思う時に、自分の命の中から「生きる力」が湧き上がります。生きる力は生きる希望を、生きる希望は生きる力を生み出します。

「創る」とは、

福祉は創造していくものです。一人一人の権利を守り、一人一人の持つ固有の能力を発揮する機会をつくりだし、社会そのものの苦しみを改善して行くには、先駆的な働きが求められます。生きる喜び、自由、希望の中で生きることのできる社会を創っていかねばなりません。

この理念と基本姿勢を基に、私たちが具体的に行動して行くための規範を次の様に決めました。

社会福祉法人十字の園 行動規範

社会福祉法人十字の園の理事並びに職員は、法人の理念の実現を目指し、キリスト教精神に立って、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して、総合的に提供されるように創意工夫します。

利用者が、個人の尊厳を保持し、地域社会で自立した生活を営むことができるように支援します。

その為に法人の理念を基本姿勢とし、以下の規範を遵守して行動します。

【社会福祉法人十字の園 理念】

「夕暮れになっても光がある」(旧約聖書ゼカリヤ書 14 章 7 節)

「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」

【行動規範】

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。

私たちは、一人ひとりの命を大切に、多様性を認め合い性別、年齢、身体や精神状況、家庭環境などで差別をしません。一人ひとりが平等で自由であることを深く認識し、プライバシーを守り自己決定を最大限に尊重した支援に努めます。命とは、一人ひとりに神さまから与えられたかけがえのない大切な命です。

- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。

私たちは、当たり前の支援やしなくてはならない支援を行うだけではありません。多くの困難を抱えた方、支援の難しさのある方を断ることなく、さらに支援が行き届いていない方へ心向け支援します。そして、支援できるようチーム力を高め創意工夫し、また、地域福祉を推進していきます。そこから湧き起こる喜びや感動が私たちの喜び、糧であります。

- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。

私たち一人ひとり、それぞれに賜物を授かっています。利用者のより良く、その人らしく「生きる」を支えるため、また、法人の理念の実現を図るため、主体的に自分自身のスキルや能力などを鍛え磨き、十字の園の職員として協働意思を持ち十分にコミュニケーションをとり、互いに力を発揮し合い支援し続けます。

- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。

私たち一人ひとりが神さまから十字の園に招かれた大切な一員です。職員誰もが当事者意識をもち主体的に、また、お互いに認め合い支え合って安心、安全な職場環境を築き、整えるよう努めます。

- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

十字の園は、社会福祉法人として高い公益性が求められます。地域に信頼される法人として法令遵守を徹底するとともに、必要な支援をし続けられるように、また、職員が安心して働き続けられるよう誠実で公正かつ適正な経営に努めます。

2019年2月22日 制定

2022 年度方針 「認め合う職場作りと組織再編」

認め合う職場作り

十字の園では、キリスト教信仰による先達の方々が大切にされて来られた思いを、毎日の礼拝を通して伝えられ、職員が先達の仕事に対する姿勢や価値観と向き合う機会としてきました。向き合う中に先達が大切にされた価値や意味を見出し、職員のキリスト教福祉の心が耕され生まれ日々の仕事に繋がっています。特に価値観が多様化され、変化の速いこの時代にあるからこそ、この確かな価値や意味を確認しつつ取り組んでいくことが大切です。今年度は、自分たちの良い働きに気づき、お互いの仕事を認め合える機会を増やし、先達の仕事と今の自分の仕事に繋がりを感じ、自分の仕事に誇りを持って働き続けられるように職場づくりを進めていきます。

人材育成

評価制度の実質的運用が開始され、職員のキャリアアップや成長に繋がる様に質を上げていきたいと思えます。それには評価内容を職員との対話で伝える事を大切に効果的運用となる様にしていきます。

これまでに、理念教育委員会、法人研修委員会、人材育成制度推進委員会、各専門部会において多角的に人材育成、人材交流の場を設け、職員の育成を進めてきましたが、今後、各会の役割りを整理し効果的な人材育成を更に進める事ができるように取り組みます。

建替え

十字の園は 20 年以上前から浜松十字の園の建て替えを見据えてきました。歴史の変遷の中で未だにそれは具体性を帯びていません。この事は法人全体が一つとなって取り組んで行かなくては実現しない事だと思えます。建替えを含めた中・長期計画を具体的に話し合う組織として経営企画チームを組織し、中期計画の柱を浜松十字の園の建て替えに据え、法人全体で一致協力して進めて行けるように法人経営基盤を整えます。

障がい者福祉

十字の園は創設の時から、高齢者福祉のみならず障がい者福祉や社会的困窮にある方への支援も使命としてきました。現在は御殿場と松崎に障がい者福祉事業を行っていますが、お互いの事業所連携を高め、障がい者福祉においてもこれまで以上に地域の期待に応えていきます。

BCP（事業継続計画）作成

今後益々継続可能な経営が求められる中で、大規模災害や感染症対策を盛り込んだ BCP（事業継続計画）の作成を、各事業所を含む法人全体で完成させ、様々なリスクに備えていきます。

人材採用

介護人材や専門職人材の採用が地域単位で難しさが増しており、介護人材においては、検討を重ねてきた外国人人材の登用に向けて具体的な取り組みを進めていきます。専門職人材の採用については地域を広げた採用活動や職場環境の改善に取り組む事で採用、職員の定着支援に努めます。

法人の情報通信ネットワーク環境の管理を組織化する。

社会福祉法人においてもホームページや情報通信のネットワーク環境の管理は欠かせないものとなっています。今後複雑さを増す事が予想される中で、それに対して組織的な対応が不十分であると考えます。情報通信ネットワーク環境の維持管理や新たなデジタル化にも対応できるよう組織化を図り取り組みます。

今年のローズンゲン年間聖句は、**父がわたしにお与えになる人は皆、わたしのところに来る。わたしのもとに来る人を、わたしは決して追い出さない。ヨハネによる福音書6章 37 節** です。十字の園では、職員も利用者も神様が与えて下さった大切な方として歩んできました。これからもその事を大切に歩むことができるように、今年の年間聖句と共に歩みを進めていきたいと思えます。

社会福祉法人十字の園 2022年度事業計画書

1. 精神的基盤

A. 基本理念

夕暮れになっても光がある

人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。

B. 行動規範

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。
- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。
- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。
- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

2. 法人事業計画

A. 2022年度 運営目標

十字の園は、これまでキリスト教精神による福祉を、礼拝を通じて伝えて来た。今年はそれに加えて、日常の仕事の中でお互いを認め合う機会を増やし、先達から繋がる良い働きを続けている事を誇りとして働く事の出来る職場づくりを目標とする。

組織の再編を行い、今までの組織で積み重ねてきた事を横の繋がりを強める事で、全体で共有できる組織運営となるようにする。

B. 2022年度 運営方針・運営計画（テーマ）

「認め合う職場作りと組織再編」

- ① 採用状況が厳しさを増す中、お互いが認め合う職場づくりに取り組む事で、働きやすさの向上を目指す。
- ② 人材育成の体制を新たにし、職員が成長を感じられる組織となる。
- ③ 浜松十字の園の建て替えを見据えた中期計画の策定を行う。
- ④ 障がい者事業の連携を強化する。
- ⑤ BCP（事業継続計画）を完成する
- ⑥ 法人の人材採用、情報通信ネットワーク環境の管理を組織化する。

C. 2022年度 事業計画（取り組み内容）

- ① 採用状況が厳しさを増す中、お互いが認め合う職場づくりに取り組む事で、働きやすさの向上を目指す。
 - ・各施設・事業所において歴史的経緯、認識を深め、自分達の良い働きを確認し、お互いにその働きを認め合う声掛けができるようになる。
 - ・行動規範に通じるユマニチュード（人間らしさ・その人らしさ）の意識を浸透させ、職員同士やご利用者の対応にユマニチュード（人間らしさ・その人らしさ）を伝える実践をし、関係性を向上させる。
- ② 人材育成の体制を新たにし、職員が成長を感じられる組織となる。
 - ・人材育成制度推進委員会は、評価制度が職員の成長や、やる気を引き出すものになる様に、制度の質の向上を推進する取り組みを行う。
 - ・理念教育委員会はそれぞれの施設の歴史的経緯の中で先達が込められた思いを理解し、それぞれ施設が継承してきた良い働きをこれからも継続できるように、伝える事の出来る職員の育成を行う。
 - ・法人研修委員会は、評価制度に基づく十字の園の職員として求められる人材育成を目指し、階層別研修を行う。これまで階層別研修に含まれていた一般的な基礎研修や管理者に必要なスキル習得の研修は、

各施設等で連携して研修計画を立てて進めて行く。

- ・各専門部会（財務・経理/労務管理/給食/リハ/相談員・施設ケアマネ/介護）は、それぞれの専門性を高め、十字の園の職員として専門性を活かす取り組みを行う。

*各会のイメージ

理念教育＝理念教育委員会、階層別教育＝法人研修委員会、基礎教育＝各施設・事業所、専門教育＝専門部会

③ 浜松十字の園の建て替えを見据えた中期計画の策定を行う。

- ・浜松十字の園の建物設備の老朽化対策を法人の最重要課題とし、地区ごとの総括体制を経営企画チームへ変更し、重点的に計画作成等に取り組む。

④ 障がい者事業の連携を強化する。

- ・御殿場、松崎の障がい者事業の連携を進める。

⑤ BCP（事業継続計画）を完成する。

- ・全施設・事業所は共通の支援事業所と連携し、BCP（事業継続計画）を完成させる。

⑥ 法人の人材採用、情報通信ネットワーク環境の管理を組織化する。

- ・情報通信ネットワーク環境の管理を、継続して安定的に管理運営ができるように人材採用・広報委員会の組織を見直し、ホームページの改定と情報通信ネットワーク環境の更新を進める。
- ・外国人材の採用に向けて受け入れ態勢の準備を各施設進めていく。
- ・専門職採用は地域の募集活動だけでは難しくなっており、法人全体として広域的な取り組みなどを検討し進める。

D. 十字の園大会

第26回十字の園大会は、伊豆高原十字の園・伊東市立養護老人ホーム平和の杜が企画及び運営を担当し、伊東市で開催する。

3. 2022年度 事業種類・規模・定員等

(数値は定員数、○は実施事業)

事業種類		浜松	御殿場	御殿場 アドナイ	伊豆 高原	アドナイ	松崎	オリブ	伊東 養護	第2 アドナイ	合計	
老人福祉事業	第一種	特別養護老人ホーム	120	107		90		50			367	
		軽費老人ホーム(ケアハウス)			30		50				20	100
		養護老人ホーム(指定管理事業)								50		50
	第二種	老人短期入所(ショートステイ)	20	11		10		9		6		56
		老人デイサービス事業(通所介護)	34	45		27	30	25		15		176
		老人デイサービス(地域密着型)		12(認知症デイ)							10	22
		老人デイサービス(委託・生きがいデイ)								15		15
		老人デイサービスセンター(地域密着型通所)								10		10
		老人デイサービスセンター(地域密着型認知症デイ)										0
		認知症対応型共同生活介護(GH)		18								18
老人居宅介護等(訪問介護)		○		○		○		○	○			
障害者福祉事業	第一種	障害者支援施設						22			22	
	第二種	障害福祉サービス(短期入所)		○					2			2
		障害福祉サービス(生活介護・通所・訪問)		○		○			27			27
		障害福祉サービス(就労支援B型)							20			20
		特定相談支援		○					○			
		移動支援		○		○						
		地域活動支援センター		15								15
公益事業	居宅介護支援事業(ケアプラン)		○		1ヶ所		○		○	○		
	地域包括支援センター(委託)		2ヶ所		○							
	患者等輸送事業(介護タクシー)		○		休止							
	診療所	休止	○									
公益的事業	老人デイ(根洗荘・自主事業)									○		

4. 2022年度 職員配置計画

(単位；人)

	本部	浜松	御殿場	御殿場 アドナイ	伊豆 高原	アドナイ	松崎	オリブ	伊東 養護	第2 アドナイ	合計	前年計
常勤	5	62	111	3	81	16	41	20	28	29	396	405
非常勤	2	47	54	1	59	17	28	7	16	17	248	254
合計	7	109	165	4	140	33	69	27	44	46	644	659
常勤換算	5.5	81.2	133.5	3.4	107.3	23.6	53.6	31.7	36.5	31.6	507.9	535.4

5. 2022年度 資金収支予算

① 事業活動による収支予算

区分	当年度 (2022年予算)		前年度 (2021年2次補正)		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	前年比
	千円		千円		千円	
介護保険事業収入	2,821,503	81.6%	2,732,420	81.1%	81,083	103.0%
老人福祉事業収入	342,581	9.9%	340,549	10.1%	2,032	100.6%
就労支援事業収入	11,482	0.3%	11,644	0.4%	△162	98.6%
障害福祉サービス等事業収入	240,408	7.0%	232,440	6.9%	7,968	103.4%
医療事業収入	10,420	0.3%	21,590	0.6%	△11,170	48.3%
借入金利息補助金収入	0	0.0%	95	0.0%	△95	0.0%
経常経費寄付金収入	3,542	0.1%	3,999	0.1%	△457	88.6%
受取利息配当金収入	25	0.0%	24	0.0%	1	104.2%
その他の収入	24,388	0.7%	26,064	0.8%	△1,676	93.6%
事業活動収入合計	3,446,349	100.0%	3,368,825	100.0%	77,524	102.3%
人件費支出	2,393,352	69.4%	2,369,667	70.3%	23,685	101.0%
事業費支出	518,687	15.1%	506,375	15.0%	12,312	102.4%
事務費支出	302,168	8.8%	279,161	8.3%	23,007	108.2%
就労支援事業支出	11,482	0.3%	11,644	0.3%	△162	98.6%
利用者負担軽減額	3,202	0.1%	3,428	0.1%	△226	93.4%
支払利息支出	4,571	0.1%	5,401	0.2%	△830	84.6%
その他の支出	16,129	0.5%	16,078	0.5%	51	100.3%
事業活動支出計	3,249,591	94.3%	3,191,754	94.7%	57,837	101.8%
事業活動資金収支差額	196,758	5.7%	177,071	5.3%	19,687	111.1%

*支出及び収支差額の構成率は事業活動収入合計に対する割合を示します。

② 資金収支予算実績年度推移

(単位：百万円、未満切り捨て)

	2022年度 予算	2021年度 実績見込	2020年度 実績	2019年度 実績	2018年度 実績
事業活動収入計(1)	3,446	3,368	3,435	3,429	3,450
事業活動支出計(2)	3,249	3,191	3,247	3,224	3,186
事業活動資金収支差額(3=1-2)	196	177	187	204	264
施設整備等収入計(4)	0	8	48	187	808
施設整備等支出計(5)	140	153	166	340	1,036
施設整備等資金収支差額(6=4-5)	△140	△145	△118	△152	△228
その他の活動収入計(7)	16	19	17	37	81
その他の活動支出計(8)	49	42	26	40	79
その他の活動資金収支差額(9=7-8)	△32	△22	△9	△2	1
予備費支出(10)	0-	2	-	-	-
当期資金収支差額合計(11=3+6+9-10)	23	6	59	49	38

6. 2022年度 借入金等の計画

① 新規借り入れ実施計画

・該当なし

② 2022年度借入金返済計画

2022年度償還表

(単位：円)

施設名	借入先 融資年度	元金償還金	利子	元金補給	利子補給	年度末残高	自己資金
浜松 十字の園	静岡銀行 18	3,324,000	226,932	0	0	34,211,000	3,550,932
御殿場 十字の園	静岡銀行 14	4,680,000	183,534	0	0	27,880,000	4,863,534
	静岡銀行 16	3,996,000	189,025	0	0	34,692,000	4,185,025
	静岡銀行 17	1,500,000	47,512	0	0	7,375,000	1,547,512
	静岡銀行 20	4,008,000	197,453	0	0	30,648,000	4,205,453
伊豆高原 十字の園	静岡銀行 18	52,488,000	2,481,781	0	0	406,736,000	54,969,781
	静岡銀行 19	11,640,000	635,202	0	0	93,140,000	12,275,202
アドナイ館	静岡銀行 13	6,000,000	36,197	0	0	0	6,036,197
第2 アドナイ館	静岡銀行 18	5,760,000	272,773	0	0	44,710,000	6,032,773
	静岡銀行 19	4,102,000	185,411	0	0	26,674,000	4,287,411
合計	静岡銀行	97,498,000	4,455,820	0	0	706,066,000	101,953,820
	合計	97,498,000	4,455,820	0	0	706,066,000	101,953,820

※(〇〇福医・静銀)は、福祉医療機構・静岡銀行からの〇〇年融資分を借換したことを示す。

③ 2022年度ファイナンスリース返済計画

(単位：円)

施設名	物件	年間支払額	年度末リース残高
法人本部	給与・財務(パソコン・サーバー)	976,320	0
法人本部	給与・財務(パソコン・サーバー)	488,160	6,834,240
御殿場	有形リース資産(キャラバン2570)	624,000	104,000
御殿場	無形リース資産(ほのぼのソフト)	1,393,920	4,181,760
御殿場	無形リース資産(ほのぼのソフト)	600,000	2,600,000
伊豆高原	有形リース資産(サーバー)	672,408	0
伊豆高原	無形リース資産(ソフトウェア)	621,324	0
松崎	有形リース資産(省エネ改修設備)	10,780,128	104,207,904
松崎	有形リース資産(電話コール)	304,128	0
松崎	有形リース資産(ビルエネルギーマネジメント)	485,460	404,550
合計		16,945,848	118,332,454

7. 施設設備・固定資産整備、修繕計画、その他特別事業について

- ① 法人本部
会計及び給与システム更新
- ② 浜松十字の園
入浴リフト導入、介護ベッド更新、AED更新、食器類更新
- ③ 御殿場十字の園、御殿場アドナイ館
特養1階のヒノキ風呂更新、送迎車両更新（普通乗用車リフトタイプ1台、軽自動車3台）
食器保管庫更新、地域包括支援センター業務用ソフトウェア更新
ケアハウス3階大浴場脱衣室床の貼り替え及び浴槽修理
- ④ 伊豆高原十字の園
サーバーリース更新、介護ソフトウェアリース更新、浴槽リフト等設置
施設車椅子仕様普通車1台更新（リース）、通所介護送迎用軽自動車1台更新（リース）
旧施設のPCBを廃棄
- ⑤ アドナイ館
エレベーター修繕、給湯器更新、厨房冷蔵庫更新
- ⑥ 松崎十字の園、オリブ
大型洗濯機更新、特養浴槽改修、複合機2台更新（リース）、介護ベッド更新
介護ソフトウェア更新（クラウド化）
- ⑦ 伊東市立養護老人ホーム
伊東市修繕計画（屋上防水改修工事他）、施設福祉車両更新、くつろぎの家玄関屋根及び外階段修繕
- ⑧ 第2アドナイ館
「あんき（事業休止中）」の土地、建物等の売却又は貸し出しの検討

II. 地域福祉及び公益的取組の推進

- ① 浜松十字の園
 - ・聖隷クリストファー高校の職場体験実習及び奉仕活動（労作）の受入れ
 - ・実習受入（福祉・看護・栄養士等の教育機関）
 - ・ボランティアの受入
 - ・中学校ボランティア受入（オリエンテーションの中で十字の園のDVDを使い、福祉の実践例を紹介している）。
 - ・地域のこども園園児と交流
 - ・浜松地区で個別相談会を開催し、地域住民、介護福祉関係者に福祉資源の見える化を推進する。
- ② 御殿場十字の園
 - ・未来の介護の担い手を育てるために職員が講師となり高校等で介護の仕事について講話を行う。
 - ・小学生の福祉教育、中高生の職業体験やボランティア及び実習生を積極的に受け入れ福祉人材の育成を図る。
 - ・御殿場市家族介護教室を開催し、在宅家族の介護力の向上や交流を図っている。
 - ・御殿場市の移動支援事業に車両を提供し地域の移動手段の確保に寄与する。
- ③ 伊豆高原十字の園
 - ・子ども食堂の開設による多世代交流や食育の推進

- ・高齢者の居場所づくりや認知症カフェ等の開催及び運営支援
- ・介護予防普及活動や配食サービスの実施
- ・地域交流ホールの無料貸し出し

④ アドナイ館

- ・保育園園児への園庭の開放
- ・こども園園児との交流会の実施
- ・高校生の部活応援と交流（野球部、吹奏楽部に応援メッセージを送る。発表の場の提供
- ・高校生奉仕活動の受け入れ
- ・浜松地区で個別相談会を開催し、地域住民、介護福祉関係者に福祉資源の見える化を推進する。

⑤ 松崎十字の園、オリブ

- ・在宅利用者等の緊急（虐待等の対象者）受け入れ
- ・地域ふれあい広場への出品
- ・地域の園児、生徒、学生との交流
- ・駐車場の開放

⑥ 伊東市立養護老人ホーム

- ・伊東市立大池小学校4年生との交流会
- ・ショートステイの緊急受入れ（DV等）
- ・デイサービス事業所での地域住民の参加行事の企画及び開催
- ・小室地域ふるさと協議会の活動への参加

⑦ 第2アドナイ館

- ・介護相談会の実施
- ・デイ事業所を地域に開放し運動の機会を提供
- ・中学生の介護体験受入
- ・浜松地区で個別相談会を開催し、地域住民、介護福祉関係者に福祉資源の見える化を推進する。

Ⅲ. 法人の役員・施設長等に関する事項

1. 評議員会

役職名	氏名	重要な兼職の状況
評議員	青木 雅人	一般財団法人日本老人福祉財団 理事長
評議員	稲松 義人	社会福祉法人小羊学園 理事長
評議員	影山 浩二	社会福祉法人慈悲庵 業務執行理事
評議員	小柳 守弘	学校法人聖隷学園 専務理事
評議員	津幡 佳伸	社会福祉法人聖隷福祉事業団 常務理事
評議員	長谷川 新	
評議員	長澤 道子	社会福祉法人やまばと学園 理事長
評議員	森 茂廣	小規模多機能センターりん 施設長

注；任期は、2021年6月14日から2025年6月開催予定の定時評議員会終結の時までです。

2. 評議員選任解任委員会（任期は、評議員と同じ。）

役職名	氏名
評議員選任解任委員（外部委員）	張田 眞
評議員選任解任委員（外部委員）	尾崎 國子
評議員選任解任委員（監事）	山崎 陽司
評議員選任解任委員（監事）	鈴木 俊郎
評議員選任解任委員（法人の事務局）	鈴木 宏明

3. 理事、施設長

(1) 理事

役職名	氏名	2022年度の担当及び重要な兼職の状況
代表理事	鈴木 淳司	十字の園 理事長
理事	山本 隆弘	十字の園 法人本部長
理事	宮島 克利	十字の園 伊豆高原十字の園施設長
理事	小川 秀幸	十字の園 松崎十字の園・オリブ施設長
理事	鈴木 啓之	十字の園 伊東市立養護老人ホーム施設長
理事	三條 洋二	十字の園 非常勤理事
理事	鈴木 新	十字の園 非常勤理事

注；任期は、2021年6月14日から2023年6月開催予定の評議員会終結の時までです。

(2) 施設長

役職名	氏名	2022年4月1日付の担当
施設長	古橋美恵子	浜松十字の園施設長
施設長	河出 雅代	アドナイ館施設長 兼 第2アドナイ館施設長
施設長	高橋 雅昭	御殿場十字の園施設長 兼 御殿場アドナイ館施設長
施設長	宮島 克利	伊豆高原十字の園施設長
施設長	小川 秀幸	松崎十字の園施設長 兼 オリブ施設長
施設長	鈴木 啓之	伊東市立養護老人ホーム施設長

4. 監事

(1) 監事

役職名	氏名
監事	山崎 陽司
監事	鈴木 俊郎

注；任期は、2021年6月14日から2023年6月開催予定の評議員会終結の時までです。

IV. 会計監査人に関する事項

- ① 会計監査人の名称 かがやき監査法人
- ② 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

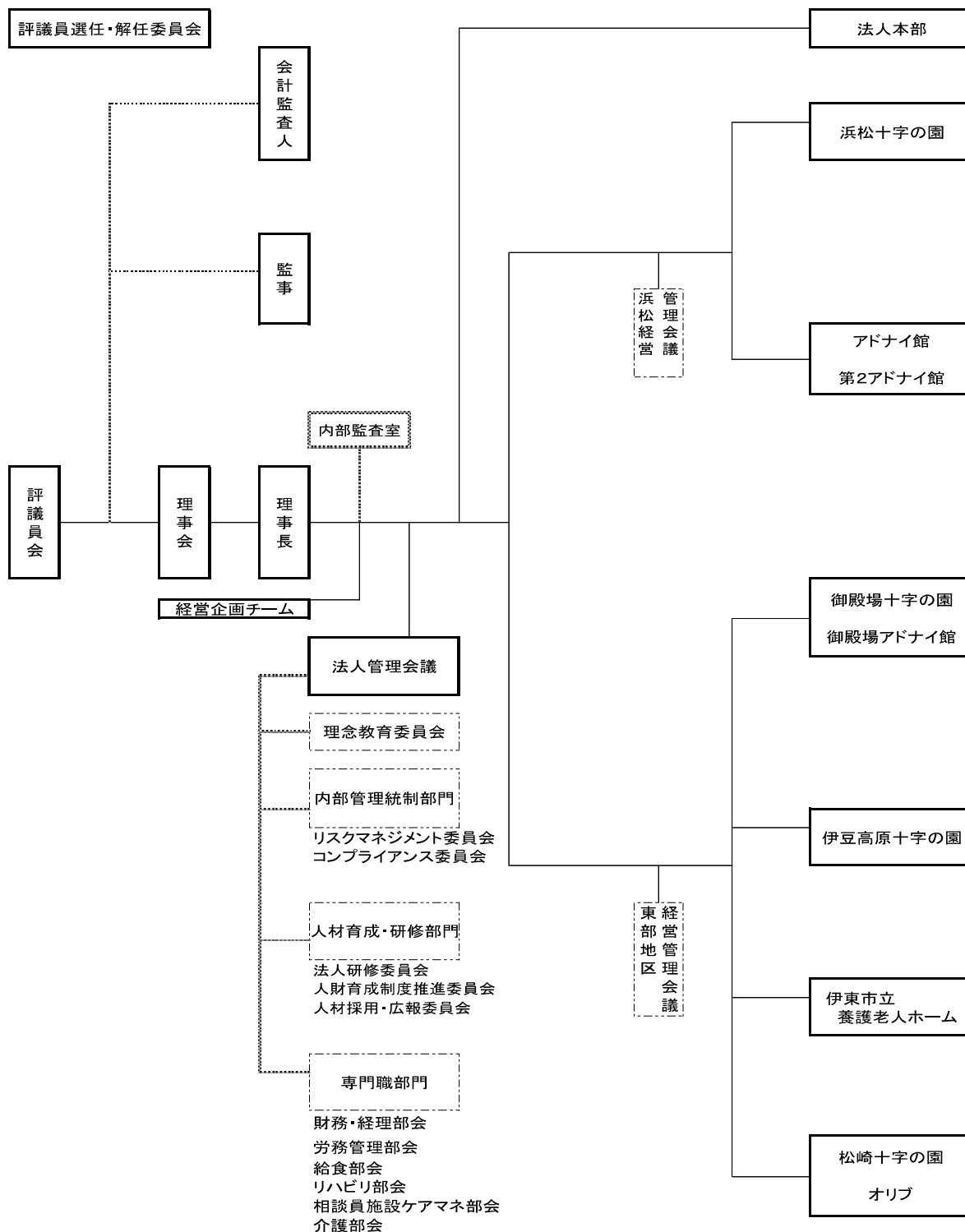
理事会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、監事全員の同意を得た上で、または監事全員の請求に基づいて、会計監査人の解任または不再任を評議員会の議題として決議を求めることとしています。監事は、会計監査人が社会福祉法第45条の5第1項各号に該当すると認められる場合は監事全員の同意に基づき、会計監査人を解任します。この場合、監事は、解任後最初に召集される評議員会において、解任の旨およびその理由を報告します。

V. 2022年度 主要会議、研修、監査 年間計画

区分	理事会	評議員会	監事監査 監査法人監査	法人管理会議	法人職員研修	その他
4月			27日 監査法人		1日 新職員研修	辞令交付式 委嘱状交付
5月			9-18日 監査法人監査 監事監査 事業報告決算	2日 第1回 27日 第2回		
6月	3日 事業報告 決算他	20日 決算報告		27日 第3回	9日 中堅研修Ⅰ	6月末 決算資産登記
7月				29日 第4回	8日 中堅職員Ⅱ	1日 機関誌発行 内部監査
8月				26日 第5回		内部監査
9月				30日 第6回	2日 リーダー研修	永年勤続表彰
10月				28日 第7回		20-21日 十字の園大会
11月	28日 業務執行報告、 補正予算他		監事定期監査	21日 第8回	1日 新任職員研修 11日 管理者研修	
12月				16日 第9回		1日 機関誌発行
1月	27日 給食委託業者 選定、その他			22日 第10回		20日 創立記念日
2月				24日 第11回		
3月	10日 事業計画 当初予算他	20日 事業計画 当初予算他		3日 第12回		

VI. 法人組織図

社会福祉法人十字の園 2022(令和4)年度 法人組織機構図



法人本部 2022年度 事業計画

I. 精神的基盤

A. 基本理念

夕暮れになっても光がある

人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。

B. 行動規範

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。
- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。
- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。
- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

II. 各種の事業計画

A. 運営目標

- ・日常業務の中で互いを認め合う機会を増やし、十字の園の先達から繋がる働きを続けていることを誇りとして働くことのできる職場をつくる。
- ・今まで組織単位で積み重ねてきた事を組織再編により横の繋がりで補強し、全体で共有できる仕組みを整える。

B. 2021年度 運営方針・運営計画

1. 互いに認め合う職場づくりに取り組み、働きやすさの向上を目指す。
 - ・行動規範に通じるユマニチュード（人間らしさ・その人らしさ）の理解を深め、日々の関わりにユマニチュードを活用して対応し、良好な関係性を築き、継続する。
2. 人材育成の体制を新たにし、職員が成長を感じられる組織を目指す。
 - ・人材育成制度推進委員会において、評価制度が職員の成長とやる気を引き出すものになるよう、制度の質の向上を推進する取り組みを行う。また、決まった事柄や解釈を各施設の担当者へ速やかに周知するとともに関連する専門部会で理解を深める。
 - ・財務・経理部会及び労務管理部会において、それぞれの専門性が高められる議論や研修の機会を設け、十字の園の職員としてその専門性を発揮していけるよう支援する。
3. 浜松十字の園の建て替えを見据えた法人全体の中期計画の策定を行う。
 - ・浜松十字の園の建物設備の老朽化対策を法人の最重要課題とし、地区単位で検討してきた体制を法人全体で検討する体制に変更し、具体的な計画作成等に取り組む。また、建替事業を見据えた法人全体の中期計画の策定を推進する。
4. BCP（事業継続計画）を完成する。
 - ・各施設が作成したBCPを基にした法人全体のBCPを完成させる。
5. 法人の人材採用、情報通信ネットワーク環境の管理を組織化する。
 - ・ネットワークセキュリティーシステム beat の更新に伴い情報通信ネットワーク環境の管理を継続して安定的に管理運営できる体制を更に強化する。
 - ・会計及び給与システム更新を円滑に行い、システム機能を活用した業務効率化を推進する。

- ・人材採用及び広報委員会の組織見直しに併せホームページの改定と更新の仕組みを整える。
- ・外国人人材の採用に向けて受け入れ態勢の準備を各施設と連携して進める。
- ・専門職採用の広域的な取組を検討し、対応する。

C. 研修方針・計画

- ・根拠に基づく基本業務の習得と情報伝達のスキル向上
 - ・労務担当者を対象にした社会保険加入対象拡大への対応と給与明細書の電子化に向けた研修を企画し実施する。
 - ・経理担当者を対象にした電子帳簿保存法への対応と消費税取扱の基礎を習得する研修を企画し実施する。
 - ・専門業務のスキル向上に向けてオンラインを含む外部研修への参加と研修内容の共有を促進する。

III. 職員について

A. 配置計画

(単位：人)

職 種	配 置		男		女	
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤
理 事 長	1	0	1	0	0	0
事務職員	4	2	4	2	0	0
合 計	5	2	5	2	0	0

*常勤換算 5.5 人

IV. 固定資産購入、修繕等

- ・会計及び給与システムの更新 約 200 万円

特別養護老人ホーム浜松十字の園 2022 年度事業計画

I. 精神的基盤

A. 基本理念

夕暮れになっても光がある

人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。

B. 行動規範

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。
- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。
- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。
- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

II. 各種の事業計画

A. 運営目標

- ・キリスト教精神を基盤とし、利用者の思いを汲み取りその人らしい生活を送れるように心がけていく。
- ・毎朝の礼拝にて、先駆者の思いを伝承していく。

B. 2022 年度 運営方針・運営計画

特養・短期入所生活介護・通所介護

1. 公正かつ誠実なケアを行い、利用者が安心して生活できる環境を整える。
2. 介護マニュアルを作成し働きやすい職場づくりを目指す。
3. 地域のニーズに対応できるチームを築く。

C. 2022 年度 各事業計画

特養・短期入所生活介護

1. 職員が確認できるマニュアルを作成し、施設全体で OJT の取り組みを進め、公正かつ誠実なケアを行う。
2. マニュアルを通して自らのケアを振り返り、主体的により良いケアできるようになる。
3. 施設建替プロジェクトでの検討を進め、具体的な計画を立てる。

看護

1. 新体制となる嘱託医との連携を円滑に進められる環境作る。
2. 多職種との連携が取れるように業務体制を見直し、業務を遂行するチームを作る。

相談

1. 困難事例の受入れと対応について地域との連携の体制を構築する。

通所介護

1. みをつくしとサテライトのんきの特徴の違いを理解し、協力し合うことで目標稼働率を達成する。

D. 数値目標

事業名	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	通所介護
利用定員数（人）	120	20	34
年間利用者延数（人）	42,048	5,556	7,589
1日平均利用者数（人）	115.2	15.2	24.5
稼働率（％）	96.0	76.1	72.0
稼働日数（日）	365	365	310
単価（円）1人1日あたり	11,823	11,476	9,115
サービス事業収入（千円）	497,130	63,760	69,172
常勤換算職員数（人）	70.9		10.3
拠点事業活動収入計	634,357円	職員数（常勤換算）	81.2人

E. 研修方針・計画

- ・感染対策研修
- ・認知症研修（ユマニチュード）
- ・コンプライアンス推進委員会
- ・基本的ケア
- ・BCPの理解と訓練

Ⅲ. 事業種別・規模

- ・介護老人福祉施設 定員 120名
- ・短期入所生活介護 定員 20名
- ・通所介護 定員 34名

Ⅳ. 職員について

A. 配置計画

職 種	配 置		男		女		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
本体 及び 短期 事業	施設長	1	0	0	0	1	0
	事務員	5	1	1	1	4	0
	相談員	2	0	1	0	1	0
	介護支援専門員	2	0	0	0	2	0
	介護職員	39	18	12	3	27	15
	看護職員	4	2	2	0	2	2
	機能訓練職員	1	1	1	0	0	1
	管理栄養士	2	0	0	0	2	0
	医師	0	1	0	1	0	0
	その他	0	11	0	0	0	11
小 計	56	34	17	5	39	29	
在宅 事業	通所介護	6	13	2	4	4	7
	小 計	6	13	2	4	4	7
合 計	62	47	19	9	43	36	

B. 職員組織について（会議体・委員会等）

組織運営	浜松経営管理会議、特養運営会議、ユニットリーダー会議、浜松地区在宅会議、デイサービス会議、事務会議
委員会	<p><浜松地区></p> <p>感染症対策委員会、事故対策委員会、身体拘束廃止委員会（虐待防止を含む）、安全衛生委員会、防災委員会、安全運転委員会、ユマニチュード推進委員会、コンプライアンス推進委員会</p> <p><施設内></p> <p>事故対策委員会、身体拘束廃止委員会（虐待防止を含む）、防災委員会、身体拘束適正化検討委員会、</p>
外部を含む委員会	苦情解決委員会、入所判定会

V. 年間事業（行事）計画

区 分	内 容
全 体 で 行 う 行 事	お茶会、夏祭り、敬老祝会、芋煮会、クリスマス、新年会、生け花、習字、民謡踊り
施設ユニットの行事	お花見、七夕、夏祭り、運動会、クリスマス、節分、雛祭り、誕生会、レクリエーション
通所介護の行事	お花見、七夕、敬老祝会、夏祭り、運動会、クリスマス、新年会、節分、雛祭り、散策、誕生会、

VI. 固定資産購入、修繕等

- ・食器類の更新
- ・入浴リフト
- ・ベッド
- ・AED

御殿場十字の園 2022年度事業計画

I. 精神的基盤

A. 基本理念

夕暮れになっても光がある

人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。

B. 行動規範

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。
- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。
- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。
- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

II. 各種の事業計画

A. 運営目標

1. 理念や行動規範を意識し、一人一人を大切にその人らしい主体的な暮らしの実現を目指す。
2. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めあい、やりがいを持って働くことができる職場を創る。

B. 2021年度 運営方針・運営計画

1. 行動規範の読み合わせを継続的に行うと共に理念教育委員会を中心に理念教育を行い、理念の浸透を図る。また、ユマニチュードケアを推進しその人らしい生活を支援する。
2. 昨年度推進したケアマニュアルの作成を継続し完成、浸透を図る。さらに職員育成制度のレベルアップを図り部門を越えて職員を育成する基盤づくりをする。また、第三者評価を受審する。
3. ICTの活用をさらに推し進め記録に要する時間の削減を行い、利用者へのサービス向上を図る。

C. 2022年度 各事業計画

1. 介護老人福祉施設

理念に基づいた働きが続けられるように継続的に職員の育成に取り組むと共に、利用者の担当者の役割等の明確化を図る。サービスの質の向上にも引き続き取り組み、ユマニチュードケアの実践、外部第三者評価を受審する。また、LIFEを生かしたケアの体制整備を行う。

2. 介護保険事業（通所介護、短期入所生活介護、訪問介護）

ユマニチュードケアを基本とした接遇や業務上の知識向上を目的として研修を実施。職員の質の向上及び利用者に寄り添い支援できる人材を育成する。また、ICTを効率よく活用しケアの充実、事故削減に継続して取り組み、利用者と関わる時間を増やす。

3. 介護保険事業（居宅介護支援事業所、包括支援センター）

居宅介護支援事業所と地域包括支援センターの連携強化や地域住民、関係事業所、行政との協力により、地域を支える仕組みづくりを促進する。また、事例検討会や勉強会を通じてケアプランに「社会資源」活用の意識を高め、地域高齢者の生活が豊かになるケアマネジメントを行う。

4. 障害者総合支援事業（居宅介護、同行援護、短期入所、移動支援、地域活動支援センター、相談支援事業）

各サービスが連携し安心して生活ができる地域づくりを行うと共に、そこに携わる職員一人一人の自律（自らを律し）を促し、誰もがリーダーになれるような人材育成を行う。また、障がい者福祉の枠を超え介護保険制度の理解や連携を図る。現状に満足することなく創造への挑戦を続ける。

<その他の事業>

5. 診療所：利用者とのコミュニケーション、ふれあいを深めることで異常の早期発見に努め、利用者家族の望む方向性を他部所との連携をたかめ意向にそった生活、苦痛の軽減ができるよう看護介護を行う。
6. その他
 - ① 地域の介護力向上に向け家族介護教室を開催する。また、御殿場市の移動支援事業に車両を提供し地域の移動手段の確保に寄与する。
 - ② 給食：他職種との連携を意識して行動し、体調不良等で摂食困難な方の状態把握等を行い、介護職と情報共有して、その方の状態に応じた食事提供を行う。また、介護職と協働してトロミ剤を安全に使用する。
 - ③ 事務所：引き続き接遇マナー研修を受講し、施設の窓口としてのサービス向上を目指す。また、各自担当業務について理解を深め、お互いに連携し円滑に進める。
 - ④ ハラスメントに対する啓蒙を定期的に行い、メンタルヘルスの専門家と連携して職員が働きやすい環境づくりを行う。

D. 数値目標

	特養	短期	通所介護	認知通所	訪問介護	居宅介護支援	地域包括支援センター
利用定員数	107人	11人	45人	12人			
年間利用者延数	38,848人	4,978人	10,500人	3,050人	3,880時間	2,742件	
一日平均利用者数	106.4人	13.6人	28.8人	9.8人	10.6時間	月228.5件	
稼働率	99.47%	123.99%	63.93%	81.99%			
稼働日数	365日	365日	365日	310日	365日	12月	365日
単価(1人1日あたり)	11,714円	11,566円	9,089円	12,295円	6,782円	16,238円	
収入	455,049千円	57,576千円	95,439千円	37,499千円	26,316千円	44,524千円	60,546千円
常勤換算職員数	62.6人	6.5人	15.7人	6.3人	5.4人	7.2人	8.0人
	地域活動支援センター	障がい者短期入所	障がい者居宅介護	同行援護	障がい者移動支援	障がい者相談支援	介護タクシー
利用定員数	15人						
年間利用者延数	2,960人	150人	655時間	575時間	96時間	363件	1,590回
一日平均利用者数	11.5人	0.4人	1.8時間	1.6時間	0.3時間	月30.3件	4.4回
稼働率	76.49%						
稼働日数	258日	365日	365日	365日	365日	12月	365日
単価(1人1日あたり)	6,733円	15,000円	5,449円	6,172円	3,417円	27,669円	662円
収入	19,930千円	2,250千円	3,569千円	3,549千円	328千円	10,044千円	1,052千円
常勤換算職員数	4.5人	0.3人	0.9人	0.1人	0.1人	1.0人	0.3人
	グループホーム	拠点事業活動収入計					
利用定員数	18人						
年間利用者延数	6,522人						
一日平均利用者数	17.9人						
稼働率	99.27%						
稼働日数	365日						
単価(1人1日あたり)	13,896円						
収入	90,630千円	908,301千円					
常勤換算職員数	14.6人	133.5人					

※収入は
介護保険事業収入、障害福祉サービス事業収入

E. 研修方針・計画

各部署において共通に職員として理解しておくべき法人や施設の理念、目的及び福祉サービスの基本理念や福祉職員としての倫理観、基本的態度などの習得。また、施設全体としてはどの部署でも即戦力となるような汎用的な職員の育成。次世代の担い手としての教育、資格取得支援を継続的に行う。

III. 事業種別・規模

介護老人福祉施設（107）、短期入所生活介護（11）、通所介護（45）認知症対応型通所介護（12）

認知症対応型共同生活介護（18）、訪問介護、居宅介護支援、各予防事業、介護タクシー
 地域包括支援センター2か所、地域活動支援センター(15)、居宅介護、身障短期、同行援護
 相談支援、診療所

IV. 職員について

A. 配置計画

職 種	配 置		男		女	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
本体						
事業						
	施設長	1	0	1	0	0
	事務員	4	0	2	0	2
	相談員	2	0	1	0	1
	介護支援専門員	3	0	1	0	2
	介護職員	44	10	21	5	23
	看護職員	4	7	0	1	4
	機能訓練職員	3	0	1	0	2
	栄養士	1	1	0	0	1
	調理師・員	0	0	0	0	0
	医師	0	3	0	3	0
	その他	1	7	1	3	0
	小 計	63	28	28	12	35
在宅						
事業						
	通所介護	16	13	4	3	12
	訪問介護	5	9	1	0	4
	居宅支援	6	1	0	0	6
	包括支援	8	0	1	0	7
	グループホーム	13	3	4	0	9
	小 計	48	26	10	3	38
	合 計	111	54	38	15	73

B. 職員組織について（会議体・委員会等）

施設運営会議、施設責任者会議、ユニット会議、在宅会議、居宅支援事業所会議、
 感染症対策委員会、事故対策委員会、虐待防止委員会、身体拘束廃止委員会、防災委員会
 安全衛生委員会、サービス質向上委員会、HYS委員会、コンプライアンス推進委員会
 優先入所第三者委員会、苦情解決第三者委員会、

V. 年間事業（行事）計画

区 分	内 容
全体で行う行事	イースター、夕涼み会、敬老の日、クリスマス、召天者記念礼拝（施設）
施設ユニットの行事	花見、遠足、七夕、紅葉狩り、忘年会、もちつき（階）、新年会、節分 外出、誕生会、寿司パーティー、よりあい、家族懇談会等
通所介護の行事	花見、遠足、流しそうめん、バーベキュー、紅葉狩り、新年会、そば打ち 誕生会等
利用者自由参加行事	衣類販売、習字教室、陶芸教室、花の友の会、ふれあい広場、

VI. 固定資産購入、修繕等

- ・特養1階のヒノキ風呂の更新
- ・送迎車両の更新（普通乗用車リフトタイプ1台、軽自動車3台）
- ・食器保管庫の更新
- ・地域包括支援センターほのぼのソフト更新

軽費老人ホーム(ケアハウス)御殿場アドナイ館 2022年度事業計画

I. 精神的基盤

A. 基本理念

夕暮れになっても光がある

人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。

B. 行動規範

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。
- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。
- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。
- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

II. 各種の事業計画

A. 運営目標

1. 理念や行動規範を意識し、一人一人を大切にその人らしい主体的な暮らしの実現を目指すため、職員が専門性やチームワークを高め合う。

B. 2022年度 運営方針・運営計画

1. 入居者の社会参加の支援
2. 生活の充実に務める
3. オンラインの活用で面会及び研修体制の維持向上に努める
4. 満室の維持継続

C. 2022年度 各事業計画

1. 入居者の社会参加の支援
社会参加の一環として地域を散策しながらゴミ拾いの実施等を行う。
2. 入居者の生活の充実に努める
 - ① 健康体操・散歩会など毎月開催のイベントの継続。
 - ② 春と秋の遠足及び、季節毎のイベントの開催。
 - ③ 感染症状況下の対応として、アンケートを実施し書籍の充実を図る。
3. オンラインの活用で面会及び研修体制の維持向上に努める
 - ① 感染症状況下で市をまたぐ来館者との面会としての活用。
 - ② 感染症状況下及び通常時に、ご都合や遠方で来館が難しい方との面会の機会を増やし面会が出来ないストレスの緩和としての活用。
 - ③ 現在の職員体制でも、オンライン研修を活用し研修の機会を増やし、職員同士情報を共有する。
4. 満室の維持継続
 - ① 包括支援センターや病院又は福祉施設等への訪問若しくは電話連絡による入居状況や施設情報の提供による入居者、入居待機者の確保。
 - ② 待機者への定期的な連絡によりコミュニケーションの維持を図る。

D. 数値目標

利用定員数	30人
利用者延数	10,950人
1日平均利用者数	30人
稼働率	100.0%
稼働日数	365日
単価(一人一日当たり)	5,340円
収入	58,480千円
職員数(常勤換算)	3.4人

事業活動収入計 58,537千円

* 老人福祉事業収入を示す。

E. 研修方針・計画

各部署において共通に職員として理解しておくべき法人や施設の理念、目的及び福祉サービスの基本理念や福祉職員としての倫理観、基本的態度などの習得。また、ソーシャルワーク実践力の向上、認知症の研修等を通じて入居者の生活を支える。

III. 事業種別・規模

ケアハウス(定員:30名)

IV. 職員について

A. 配置計画

(単位:人)

職 種	配 置	男		女			
		常勤	非常勤	常勤	非常勤		
本体 事業	施設長	1(兼務)	0	1	0	0	0
	事務員	1(兼務)	0	0	0	1	0
	相談員	1	0	0	0	1	0
	介護職員	1	1	1	0	0	1
合 計		4	1	2	0	2	1

B. 職員組織について(会議体・委員会等)

施設運営会議、施設責任者会議、職員会議
感染症対策委員会、事故対策委員会、虐待防止委員会、身体拘束廃止委員会、防災委員会 安全衛生委員会、サービス質向上委員会、HYS委員会
優先入所第三者委員会、苦情解決第三者委員会

V. 年間事業(行事)計画

区 分	内 容
全体で行う行事	花見、夕涼み会、園遊会、クリスマス会、新年挨拶会、餅つき大会
施設ユニットの行事	散歩会(月2回)、健康体操(月2回)、気楽会(隔月) カラオケクラブ(毎月)、茶話会(隔月)、春秋遠足
利用者自由参加行事	衣類販売、習字教室

VI. 固定資産購入、修繕等

- ・3階大浴場脱衣室床の貼り替え
- ・3階浴槽修理

伊豆高原十字の園 2022 年度事業計画

I. 精神的基盤

A. 基本理念

夕暮れになっても光がある

人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。

B. 行動規範

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。
- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。
- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。
- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

II. 各種の事業計画

A. 運営目標

1. 利用者・入居者一人ひとりを大切に、その人らしい主体的な暮らしの実現を目指す。
2. 地域の様々な相談を包括的に受け止め、多機関と連携して重層的支援体制を構築する。
3. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めあう。
4. 安定した経営基盤を構築する。

B. 2022 年度 運営方針・運営計画

1. 利用者・入居者の尊厳保持と自立をうながす組織づくりを総合的に実施する。
2. 新型コロナウイルス感染対策を行いつつ生活の質の向上に向け活動の再開等に取り組む。
3. 地域の支え合いの体制づくりや包括的、重層的な支援体制の構築に取り組む。
4. 安心安全の職場環境をめざし職場におけるリスクマネジメントを推進する。

C. 2022 年度 各事業計画

1. 介護老人福祉施設

- ① 生活支援室：サービス指針や各種マニュアル等を一括して整理し研修や自己評価等により浸透を図り、業務標準化とPDCAサイクルを推進する。また、入居者と職員にとって共に居心地の良い施設を目指し、ノーリフトケアの取り組みとして入浴リフトの導入を行う。
- ② 看護室：チームが一丸となって一人ひとりの状態に合わせた医療ケアを提供できるよう、看護業務やマニュアルの見直しを行う。
- ③ 生活相談室：生活の質の向上を実現するため、入居者の想いを拾った「思い実現シート」を作成し、多職種と連携して行う。
- ④ 給食室：明日への希望・楽しみとなる食事の提供ができるよう、知識・技術を勉強会等で学び統一を図る。また、調理員の提案型により新メニューの開発を行う。
- ⑤ 事務室：職員相互に担当外の業務の一部を担う若しくは共同で行うことにより、効率化やリスクマネジメントを図る。

2. 短期入所生活介護

- ① 利用者満足度の向上を目指し、利用者の意見を取り入れながら食や季節のイベントを月1～2回開催する。

② 担当者不在時でも緊急受入がスムーズに行えるよう受入手順書等を作成する。

3. 通所介護

① 感染対策を徹底し、コロナ禍でも利用者個々に満足していただけるようレクリエーションや機能訓練をメニュー化して整理する。

② 職員研修やミニミーティングを適時実施し、職員間の情報の共有を図り連携を徹底する。

4. 訪問介護

① 意見交換がしやすい職場環境をつくるため、週に1回は時間を設け職員が顔を合わせて打ち合わせをする。

② 職員が持ち回りで担当して行う月1回の事業所勉強会を引き続き行うとともに、特に認知症ケアや接遇について学び支援の均質化を図る。

5. 居宅介護支援事業所

① 迅速丁寧をモットーに支援を断ることなく対応できるよう、個々の担当ケースの共有や支援困難ケース等のチーム検討を適時行い組織力の向上を図る。

② 個別の研修ニーズに応じた研修計画を作成実施し、必要なスキルを身に付ける。

6. 地域包括支援センター

① 地域の支援体制を強化するため関係機関と生活支援コーディネーター（SC）と連携し、地域に出向きフレイル予防や防災等の普及啓発を行う（3回）。

② 認知症の方を地域で支える仕組みづくりとして、SCと協働してチームオレンジの体制を構築する。

7. 介護予防事業

① 感染予防を徹底し介護予防教室や通所型サービスAを開催し、休みがちな利用者への対応を検討改善し利用率90%の達成を目指す。

② 個々の職員のスキルアップが図れるよう、他圏域の教室視察や外部研修に参加する。

8. 生活支援体制整備事業

① 通いの場である居場所への訪問フォローとともに、新規居場所の立ち上げ等行う。

② 住み慣れた地域で暮らし続けられるために、地域でのボランティアの発掘や育成、また、チームオレンジの取り組みの推進、認知症サポーターの養成支援を行う。

D. 数値目標

事業名	介護老人 福祉施設	短期入所	通所介護	訪問介護	居宅介護 支援事業所
利用定員数	90人	10人	27人	—	—
年間利用者延数	32,521人	3,541人	7,107人	12,045時間	2,844人
1日平均利用者数	89.1人	9.7人	23.0人	33時間	237人
稼働率	99.00%	97.00%	85.19%	—	—
稼働日数	365日	365日	309日	365日	12月
単価（1人1日あたり）	14,403円	13,301円	8,827円	3,740円	14,079円
収入	468,398千円	47,098千円	62,737千円	45,049千円	40,043千円
常勤換算職員数	66.8人	6.9人	9.3人	7.8人	6.3人

事業名	障がい者 居宅介護	地域包括 支援センター	介護予防事 業	生活支援体 制整備事業	
利用定員数	—	—	—	—	—
年間利用者延数	360 時間	—	—	—	—
1 日平均利用者数	1 時間	—	—	—	—
稼働率	—	—	—	—	—
稼働日数	365 日	365 日	254 日	254 日	—
単価（1 人 1 日あたり）	1,716 円	—	—	—	—
収入	618 千円	36,800 千円	8,320 千円	6,440 千円	—
常勤換算職員数	0.1 人	7.0 人	1.8 人	1.3 人	—
拠点事業活動収入計	718,664 千円		職員数（常勤換算）		107.3 人

※収入は介護保険事業収入及び障害福祉サービス等事業収入を示す。

E. 研修方針・計画

- ① 理念や行動規範を実践できる人材の育成を図る。
 - ⇒指針やマニュアルの読み合わせや自己評価及び各委員会等を通じて理念や行動規範の浸透を図る。
 - ⇒認知症ケアについての理解を深め、対人援助の基本姿勢や態度を学ぶ。
- ② 職員一人一人のキャリア等に応じた成長を支援する。
 - ⇒法人階層別研修と連動し、施設や地区において新職員、中堅職員、リーダー研修を実施する。
 - ⇒専門研修への参加促進や資格取得支援等を体系的に実施し専門性の向上を図る。
 また、介護初任者研修の開校を検討する。

III. 事業種別・規模

介護老人福祉施設（定員；90名）、短期入所生活介護事業（定員；10名）、通所介護事業（定員；27名）、訪問介護事業、居宅介護支援事業、配食サービス事業、地域包括支援センター事業、障害福祉サービス事業（居宅介護、重度訪問介護）、介護予防事業（一般介護予防事業、通所型サービス A、短期集中通所型サービス C、地域介護予防活動支援事業（居場所、サロン）、生活支援体制整備事業（生活支援コーディネーター、認知症地域支援推進員）

IV. 職員について

A. 配置計画

(単位：人)

職 種		配 置		男		女	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
本体 事業	施設長	1	0	1	0	0	0
	事務員	3	0	1	0	2	0
	相談員	1	0	1	0	0	0
	介護支援専門員	1	0	0	0	1	0
	介護職員	41	11	16	2	25	9
	看護職員	5	2	0	0	5	2
	機能訓練職員	1	0	1	0	0	0
	栄養士	1	0	0	0	1	0
	調理師・員	4	6	2	3	2	3
	医師	0	2	0	2	0	0
	その他	0	11	0	6	0	5
小 計		58	32	22	13	36	19
在宅 事業	通所介護	6	4	1	1	5	3
	訪問介護	3	15	0	0	3	15
	居宅介護支援	6	0	2	0	4	0
	地域包括支援	6	1	2	0	4	1
	介護予防事業	1	4	0	0	1	4
	生活支援整備	1	3	1	0	0	3
	小 計		23	27	6	1	17
合 計		81	59	28	14	53	45

B. 職員組織について (会議体・委員会等)

組織運営	施設管理会議、施設運営会議、在宅運営会議、ユニット会議、各部署会議
委員会	防災委員会、感染症対策委員会、リスクマネジメント委員会、個人情報保護委員会、権利擁護委員会（身体拘束適正化・虐待防止）、コンプライアンス推進委員会、褥瘡予防対策委員会、安全衛生委員会、施設研修委員会、広報委員会、各行事委員会
外部を含む委員会	優先入所検討委員会、苦情解決第三者委員会

V. 年間事業 (行事) 計画

区 分	内 容
全体で行う行事	春のふれあいまつり、クリスマス礼拝、秋まつり、召天者を偲ぶ会、礼拝、敬老式典
施設ユニットの行事	お花見、端午の節句、七夕、敬老祝会、芋煮会、クリスマス、もちつき、新年会、節分、雛祭り、誕生会、外出・レクドライブ、お月見、コンサート
通所介護の行事	お花見、七夕、敬老祝会、夏祭り、運動会、芋煮会、クリスマス、新年会、忘年会、節分、雛祭り、散策、誕生会、サークル (絵画・園芸・手芸・おやつ・生け花)

VI. 固定資産購入、修繕等

- ・サーバーリース更新 ・介護ソフトウェアリース更新 ・浴槽リフト等の設置
- ・施設車椅子仕様普通車1台更新 (リース) ・通所介護送迎用軽自動車1台更新 (リース)
- ・旧施設のPCBを廃棄

アドナイ館 2022 年度事業計画

I. 精神的基盤

A. 基本理念

夕暮れになっても光がある

人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。

B. 行動規範

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。
- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。
- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。
- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

II. 各種の事業計画

A. 運営目標

アドナイ館は、キリスト教精神に立って、長年社会の中で活躍されてきた人生の先輩方の老後の住まいとして、人間としての誇りが守られ、自由と希望を感じられる生活の場です。

年齢とともに増す不安や生活上の困難に対し助言や援助を行うとともに、自己決定や意思を尊重し、可能な限り自立した生活が送れるよう支援します。

穏やかで温かい環境の中で、一人一人が自分らしく自立心をもって生活し続けられることを大切にします。

B. 2022 年度 運営方針・運営計画

- ・理念や行動規範に基づいた職員の意識統一を図り、チーム一丸となって利用者本位の生活を支援する。
- ・入居者が自立した自分らしい生活が継続できる環境を整える。
- ・浜松地区の連携の中で、業務の合理化、経営の効率化、危機管理等の仕組みを構築する。
- ・防災、感染症の BCP を作成し、職員に周知する。

C. 2022 年度 各事業計画

- ・ケアハウス
 - ・入居者自身の自発的な活動が円滑に行えるよう、定期的に入居者の声を聞く取り組みを続け、そこから拾い上げた声に応える形でわかりやすい情報発信を行う。
 - ・入居者が将来への不安に備えられるよう、ACP の勉強会や保証人や後見人制度の説明会、個別相談を計画的に実施する。
 - ・施設整備計画を見える化し、安心して生活できる環境を整える。
- ・細江デイサービスセンター
 - ・機能訓練の聞き取り調査、興味関心シートの活用等により、ご利用者自身で活動の選択ができ自主性が尊重される場を作っていく。
 - ・職員個々が接遇マナーについて当事者意識を持つことができるようになるために、担当者を

決めて定期的に勉強会を実施する。

D. 数値目標

事業名	ケアハウス	通所介護
利用定員数（人）	50	30
年間利用者延数（人）	18,250	7,533
1日平均利用者数（人）	50.0	24.3
稼働率（%）	100.0	81.0
稼働日数（日）	365	310
単価（円）1人1日あたり	5,062	9,331
サービス事業収入（千円）	92,386	70,290
常勤換算職員数（人）	12.1	11.8
拠点事業活動収入計	167,059千円	職員数（常勤換算） 23.9人

E. 研修方針・計画

- ・社会福祉施設として必要な研修を確実に実施する。
- ・個別の課題や役割に応じた研修を行う。
- ・BCPに則した研修・訓練の計画を立てる。

III. 事業種別・規模

- ・ケアハウスアドナイ館（定員50名）
- ・細江デイサービスセンター（定員30名）

IV. 職員について

A. 配置計画 予算に基づく配置計画人数を記入する。（単位：人）

職 種	配 置		男		女		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
本体 事業	施設長	1	0	0	0	1	0
	事務員	1	0	0	0	1	0
	相談員	1	0	0	0	1	0
	介護職員	1	2	1	0	0	0
	栄養士	1	0	1	0	0	0
	調理師・員	4	2	0	0	4	1
	その他	0	2	0	2	0	1
	小 計	9	6	2	2	7	2
在宅 事業	通所介護	7	11	3	3	4	8
	小 計	7	11	3	3	4	8
合 計	16	17	5	5	11	10	

B. 職員組織について（会議体・委員会等）

組織運営	浜松経営管理会議、アドナイ館管理会議、ハウス会議、厨房会議 デイサービス会議
委員会	安全運転委員会、感染症対策委員会、事故対策委員会、虐待防止委員会、身体拘束委員会、安全衛生委員会、研修委員会、 コンプライアンス推進委員会、ユマニチュードケア推進委員会
外部を含む委員会	苦情解決委員会

V. 年間事業（行事）計画

区 分	内 容
ケアハウスの行事	希望の日（敬老祝会） クリスマス祝会 食事会 他
通所介護の行事	夏祭り 敬老会 他

VI. 固定資産購入、修繕等

エレベーターの改修、給湯器交換、厨房冷蔵庫買い替え

松崎十字の園・オリブ 2022年度事業計画

I. 精神的基盤

A. 基本理念

夕暮れになっても光がある

人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。

B. 行動規範

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。
- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。
- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。
- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

II. 各種の事業計画

A. 運営目標

- ・教会と繋がって礼拝を守り、祈りと感謝の気持ちを忘れない。
- ・垣根のない福祉サービスを提供し地域と共生する。
- ・事業を安定して継続できるよう職員や利用者を増やす取り組みと働きやすい職場環境を整える。

B. 2022年度 運営方針・運営計画

1. 理念の下で働く職場への取り組み
 - ・神様への祈りを持って一日を始め、感謝を持って一日を終える。
2. 地域福祉のニーズを捉え、地域と共に歩む取り組み
 - ・地域での存在感をアピールできるよう施設パンフレットを刷新する。
 - ・ホームページ、SNS等の運用方法を見直し、情報発信力を強化する。
 - ・行政等関係機関と連携協働して地域住民の交流場所を作り地域に貢献する。
3. 安心して働き続けられる職場環境を作る取り組み
 - ・整理整頓及びハラスメント予防対策を講じ、働きやすい職場環境を整備する。
 - ・中長期の修繕計画を立案する。
 - ・BCP（事業継続計画）を実行性のあるものにバージョンアップする。

C. 2022年度 各事業計画

1. 高齢者福祉

1) 介護老人福祉施設 松崎十字の園

(1) 介護室

- ①リーダーを中心に成長への意識向上につながる取り組みをし、自ら学び、考え、行動できる職員を育成する。
- ②ユマニチュードの理解を深め、ケアの質を上げることで利用者の日常生活を豊かにする。

(2) 生活相談員

- ①地域の方々が気軽に相談、利用できる施設となる取り組みをし、入所申込者増や利用者、家族の満足度を上げる。

②面会や訪問の制限に関わらず、利用者と家族の絆を大切にし、繋がりが途切れないよう多職種と連携し心のケアを行う。

(3) 施設介護支援専門員

・担当者会議に利用者の参加を促し、本人や家族、関係職種の其々の意見、考えを十分に尊重して各利用者に1つ以上の日課を見つけて施設サービス計画書を作成することで、毎日の生活に楽しみを提供する。

2) 短期入所生活介護事業

・地域の居宅介護支援事業所等関係機関に空床情報を随時提供するなどで積極的に連携及び関係を築き、新規利用者の獲得を図り、稼働率を向上する。

3) 通所介護事業

・ユマニチュードの学びに加え、他事業所との情報交換や体験実習、講習等で良いサービスを吸収、実践し、新規利用者の獲得を図り、稼働率を向上する。

4) 訪問介護事業

・利用者、家族が安心して在宅生活を営めるよう、積極的に研修への参加や自主的な学びにてスキルを高め、コミュニケーション力を向上させて支援提供する。

5) 居宅介護支援事業

・他職種や他機関、地域と積極的に関わりを持ち、利用件数を増やす。また、利用者の生活の質を高めるために自己研鑽を行う。

2. 障がい福祉 (障がい者支援施設 オリーブ)

1) 施設入所支援／生活介護／短期入所

・障がい者支援の専門性について毎月テーマを挙げ、チームで学びを深めて個別支援を充実させる。

2) 障がい者相談支援

・共同生活援助(グループホーム)日中支援型の開設実現に向け、情報収集と安定した経営、人材確保等が可能かどうか、中長期計画としての第一歩を踏み出す年度とする。

3) 居宅介護(ホームヘルプ)

・利用者、家族が安心して在宅生活を営めるよう、積極的に研修への参加や自主的な学びにてスキルを高め、コミュニケーション力を向上させて支援提供する。

4) 就労継続支援B型事業所(ワークショップマナ)

・利用者一人ひとりの課題を適切に捉え、個々の力が引き出せるよう創意工夫した支援を行う。

3. 看護室(特養・オリーブ共通)

・高齢者、障がい者における特有の疾患(認知症、高次脳機能障害等)について家族や多職種と共に理解を深め日常生活を支える。

4. 給食室(特養・オリーブ共通)

・ユマニチュードを取り入れ、利用者だけではなく他部署職員も含め、相手を認め合う(受け入れる)気持ちを持って仕事を行う。

5. 事務室(特養・オリーブ共通)

・設備の老朽化や職員確保の困難さによる業務効率の低下を予防するための対策を講じる。

D. 数値目標

松崎十字の園拠点

事業名	介護老福施設	短期入所	通所介護	訪問介護	居宅介護支援
利用定員数	50人	9人	25人	—	—
年間利用者延数	18,158人	3,449人	3,885人	1,512時間	131件
1日平均利用者数	49.7人	9.4人	15.0人	4.1時間	月 10.9件
稼働率	99.5%	105.0%	60.0%	—	—
稼働日数	365日	365日	259日	365日	月
単価（1人1日あたり）	11,844円	11,876円	7,681円	5,034円/時	12,366円/件
収入	215,071千円	40,963千円	29,839千円	7,612千円	1,620千円
常勤換算職員数	44.2人		5.9人	2.5人	1.0人
拠点事業活動収入計	300,684千円		職員数（常勤換算）		53.6人

オリブ拠点

事業名	施設支援	生活介護	短期入所	障害ヘルパー	相談支援	就労支援
利用定員数	22人	27人	2人	—	—	20人
年間利用者延数	7,982人	6,187人	766人	840時間	—	6,579人
1日平均利用者数	21.9人	23.0人	2.1人	—	—	25.4人
稼働率	99.4%	85.2%	104.9%	—	—	127.0%
稼働日数	365日	269日	365日	365日	365日	259日
単価（1人1日あたり）	6,198円	11,424円	10,328円	3,776円/時	—	10,047円
事業収入	49,470千円	70,678千円	7,911千円	3,172千円	14,269千円	66,102千円
常勤換算職員数	19.3人			2.5人(兼務)	2.5人	7.4人
拠点事業活動収入計	212,543千円			職員数（常勤換算）		31.7人
2拠点事業活動収入計	513,227千円			職員数（常勤換算）		85.3人

*収入は介護保険事業収入及び障害福祉サービス等事業収入並びに就労支援事業収入を示す。

E. 研修方針・計画

- ・ユマニチュード（人間らしさ・その人らしさ）
- ・ハラスメント対策
- ・コンプライアンス

III. 事業種別・規模

- ・松崎十字の園拠点

介護老人福祉施設（50名）、短期入所生活介護事業（9名）
通所介護事業（25名）、訪問介護事業、居宅介護支援事業

- ・オリブ拠点

施設入所支援（22名）、生活介護（27名）、短期入所（2名）
障がい者相談支援、居宅介護（ホームヘルプ）
就労継続支援B型事業所（20名）

IV. 職員について

A. 配置計画

(単位：人)

職 種		配 置		男		女	
		常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
本体 事業	施設長	1	0	1	0	0	0
	事務員	3	1	2	0	1	1
	相談員	4	2	3	0	1	2
	介護支援専門員	1	0	1	0	0	0
	介護職員	29	10	18	1	11	9
	看護職員	4	4	0	3	4	1
	機能訓練職員	2	0	2	0	0	0
	栄養士	2	0	1	0	1	0
	調理師・員	2	7	1	1	1	6
	医師	0	1	0	1	0	0
	その他	7	5	1	1	6	4
	小 計	55	30	30	7	25	23
在宅 事業	通所介護	3	3	2	0	1	3
	訪問介護	2	2	0	0	2	2
	居宅介護支援	1	0	1	0	0	0
	小 計	6	5	3	0	3	5
合 計		61	35	33	7	28	28

B. 職員組織について (会議体・委員会等)

組 織 運 営	施設管理会議、施設運営会議、高齢福祉課運営会議、障がい福祉課運営会議、部署会議、リーダー会議 (介護室)、ユニット会議 (介護室)
委 員 会	防災委員会、衛生委員会、研修委員会、ケア連携、感染対策委員会、給食委員会、事故防止委員会 (高齢・障がい)、5S委員会、リスクマネジメント委員会、虐待防止 (身体的拘束適正化検討委員会含む) 委員会 (高齢・障がい)、広報委員会、クリスマス委員会、コンプライアンス推進委員会、敬老会委員会 (特養)
外部を含む委員会	優先入所検討委員会、特養入所判定会、苦情解決委員会

V. 年間事業 (行事) 計画

区 分	内 容
全体で行う行事	クリスマス祝会、朝の礼拝、防災訓練 (総合訓練、検証訓練) [年 12 回内夜間想定 4 回] 地震火災総合訓練 (年 1 回)、健康診断
特養の行事	誕生日会、レクドライブ、お食事会、買い物外出、忘年会、新年会敬老会、
オリブの行事	誕生日会、クリスマス忘年会、買い物外出、他
通所介護の行事	誕生日会、お花見、七夕まつり、夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス会、節分、雛祭り、他

VI. 固定資産購入、修繕等

- ・大型洗濯機 (250 万円)
- ・複合機 2 台 (200 万円・リース)
- ・介護ソフト「ちょうじゅ/クレヨン」クラウド化 (130 万円)
- ・特養浴槽改修工事 (350 万円)
- ・介護ベッド (100 万円)

伊東市立養護老人ホーム 平和の杜 2022年度事業計画

I. 精神的基盤

A. 基本理念

夕暮れになっても光がある。(旧約聖書ゼカリヤ書 14 章 7 節)
人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。

B. 行動規範

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。
- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。
- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。
- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

II. 各種の事業計画

A. 運営目標

1. 「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」を基盤として、利用者の皆さんがかけがえのない人生を、最期までその人らしく生き続けることができるよう支援します。
2. 主の祈りをもとに、利用者一人ひとりの穏やかな日々の暮らしと、利用者相互の支えあい、助け合いで、なごやかでのびやかな共同体作りに取り組みます。
3. 東部地区施設との連携を強化し、組織力の向上を図ります。

B. 2022年度 運営方針・運営計画

1. 理念の実現の為、行動規範の具現化に取り組む。
2. 建物・設備老朽化の改善及び個室化の実現に向け市と協議を進めていく。
3. 伊豆高原十字の園と連携し業務の効率化を図り、災害時でも業務継続が出来るよう進める。
4. 高齢者福祉課及びふるさと協議会と連携し地域のニーズに応えられる施設づくりに取り組む。
5. コロナ禍でも、一人ひとりが健康で四季を感じられる施設づくりに取り組む。
6. 職員のスキルアップ、利用者との関係構築に向け、育て合い助け合う職場づくりに取り組む。

C. 2022年度 各事業計画

1. 養護老人ホーム・特定施設入居者生活介護
 - ① 利用者の事や職員同士の事、それぞれが互いに思い合える・信頼し合える・話し合える環境作りに取り組み、働きやすい職場を創る。
 - ② 各部署年間勉強会を生かし、自らの役割を見つけ継続できる力を身に着ける。コミュニケーションエラーを防ぎ、得られた情報からアセスメント能力を高め、安定した看護を行う。
 - ③ 施設内の生活が多い中、多職種と連携し、嗜好調査等からニーズを把握し、行事時の料理・演出等チームとして創意工夫し、利用者に季節感を感じる楽しみある食事を提供する。
 - ④ 他部署との連携を強化し、予算実績の問題を共有できるようにする。問題の解決を協力して行えるよう努め、スキル・業務の質の向上を図る。

2. 老人福祉短期入所

- ① 感染症対策として、通常の短期入所希望の方が施設を利用できるよう行政と話し合い必要に応じて利用前に検査を行う等の体制を整え必要とする方を支援できる体制(感染状況に応じた対応の手順)を作る。又、緊急利用の場合も受け入れ後に各部署と連携を図り感染対策を行う。
- ② 緊急利用から長期の入所となっている方の支援について、本人の希望を行政へ伝える。
また、行政と協力し可能な限り現状を本人にも理解してもらえよう対応していくことで施設の生活に係る心身の負担軽減につなげ、本人の希望する方向へ対応できるように調整する。

3. 生きがいデイサービス

- ① デイサービスで健康体操を繰り返して行う事で、自宅でも積極的に体操に取り組めるようにして筋力の低下を防ぐ。脳トレ・ゲーム等のレクで認知機能や集中力を高めるように支援する。

4. 通所介護

(1) 平和の杜

- ① 笑顔を大切に利用者・職員ともに明るく楽しい雰囲気づくりに努め、ユマニチュード理論の基に認知症理解の実践を行う。利用者人数は平均 14 名を目標とする。

(2) 一碧の杜くつろぎの家

- ① 生活の場から離れた場所に通り刺激を受けながら心身機能の低下を防ぎ、利用者の人間らしさを尊重し、穏やかで充実した時間を過ごせるよう支援する。
- ② 職員間の連携を密にしよりきめ細やかなケアに努めるとともに、多職種や地域への情報発信により利用者を獲得する。

5. 訪問介護

- ① 他事業所を利用されていた新規の方が多いので、特にコミュニケーションを多くとり、信頼関係を深める。
- ② 同施設内の事業所で共通の関りがある方は、それを強みとして情報共有をスムーズに行い差別化を図り地域での評価をあげる。

6. 居宅介護支援事業

- ① 各圏域の研修や部署勉強会、地域ケア会議等で情報の習得に努め、病院施設行政各事業所との連携を密にし、最新の情報を共有する。チームとして創意工夫に尽力しながら本人、家族の求める支援ができるようにする。

D. 数値目標

事業名	養護	特定施設	老人短期	生きがいデイ	居宅支援
利用定員数	50 人	24 人	6 人	15 人	—
年間利用数延数	17,520 人	8,578 人	365 人	3,172 人	432 件
1 日平均利用者数	48.0 人	23.5 人	1.0 人	13.0 人	月 36.0 件
稼働率	96.00%	97.92%	16.67%	86.67%	—
稼働日数	365 日	365 日	365 日	244 日	12 月
単価(一人一日当たり)	6,450 円	6,331 円	3,849 円	6,805 円	12,604 円
収入	113,000 千円	54,304 千円	1,405 千円	21,586 千円	5,445 千円
常勤換算職員数	15.1 人	1.7 人	0.2 人	3.6 人	1.0 人

事業名	通所介護Ⅰ	訪問介護	(再掲) 特定訪問	通所介護Ⅱ	(再掲) 特定通所
利用定員数	15人	—	—	10人	—
年間利用数延数	3,626人	12,016時間	(11,680時間)	2,357人	(1,295人)
1日平均利用者数	14.0人	32.9時間	(32.0時間)	9.1人	(5.0人)
稼働率	93.33%	—	—	91.00%	—
稼働日数	259日	365日	(365日)	259日	(259日)
単価(一人一日当たり)	8,468円	2,920円	—	8,869円	—
収入	30,704千円	35,086千円	—	20,904千円	—
常勤換算職員数	5.5人	6.4人	—	3.0人	—
拠点事業活動収入計	284,419千円		職員数(常勤換算)		36.5人

*収入は老人福祉事業収入及び介護保険事業収入額を表記した。

E. 研修方針・計画

- ① 法人階層別研修と連動し、地区又は施設において新職員、中堅職員、リーダー研修を実施する。
- ② 専門部会や外部の専門職研修への参加促進や資格取得支援等を体系的に実施し専門性の向上を図る。

Ⅲ. 事業種別・規模

養護老人ホーム 定員 50 名、ショートステイ 定員 6 名、生きがいデイサービス 定員 15 名
 特定施設入居者生活介護 定員 24 名、通所介護 定員 15+10 名、訪問介護、居宅介護支援

Ⅳ. 職員について

A. 配置計画

(単位：人)

職 種	配 置		男		女		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
本体 事業	施設長	1	0	1	0	0	0
	事務員	1	2	1	1	0	1
	相談員	1	1	0	0	1	1
	介護支援専門員	1	0	0	0	1	0
	介護職員	9	0	3	0	6	0
	看護職員	2	1	0	0	2	1
	栄養士	1	0	0	0	1	0
	調理師・員	4	3	0	0	4	3
	医師	0	1	0	1	0	0
	小 計	20	8	5	2	15	6
在宅 事業	通所介護(平和の杜)	2	4	1	0	1	4
	通所介護(くつろぎの家)	2	2	1	1	1	1
	大池デイサービス	2	2	1	0	1	2
	訪問介護	1	0	0	0	1	0
	居宅介護支援	1	0	0	0	1	0
	小 計	8	8	3	1	5	7
合 計	28	16	8	3	20	13	

B. 職員組織について（会議体・委員会等）

組織運営	施設管理会議、施設運営会議、職員全体会議、在宅サービス会議、支援会議、医務室会議、お台所会議、生活相談室会議、サービス担当者会議、ケース会議
委員会	感染症対策委員会、身体拘束廃止委員会、虐待防止委員会、防災対策委員会、苦情解決委員会、リスクマネジメント委員会、コンプライアンス推進委員会、研修委員会、広報委員会、QOL委員会、タンポポ（リハビリ）委員会、防災チーム
外部を含む委員会	養護老人ホーム入所判定委員会、苦情解決第三者委員会、運営推進会議 小室地域ふるさと協議会

V. 年間事業（行事）計画

区 分	内 容
全 体 で 行 う 行 事	あじさいの会、(納涼祭)、敬老会 (感謝の集い)、クリスマス会、(新年会)
施設グループの行事	お花見、レクドライブ、食事会、ショッピング、花火鑑賞会、運動会
通所介護の行事	お花見、敬老会、七夕、小遠足、運動会、クリスマス会、新年会、節分、ひな祭り、レクドライブ、誕生日会

VI. 固定資産購入、修繕等

伊東市修繕計画（屋上防水改修工事他）

施設福祉車両の更新。

くつろぎの家玄関屋根及び外階段修繕。

第2アドナイ館 2022年度事業計画

I. 精神的基盤

A. 基本理念

夕暮れになっても光がある

人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。

B. 行動規範

- ・私たちは、一人ひとりの命と個性と権利を大切にします。
- ・私たちは、支援の必要な方に積極的に歩み寄り、必要な支援を届けます。
- ・私たちは、常に自己研鑽に励み、互いに力を発揮し合い協力して支援します。
- ・私たちは、安心、安全な職場環境を整えます。
- ・私たちは、誠実で公正かつ適正な経営を行います。

II. 各種の事業計画

A. 運営目標

自立した自由な生活を送りながらも、困った時にはいつでも相談できるスタッフや親しい仲間と安心して暮らせる生活の場であるケアハウス。加齢とともに必要となってくる介護や看護の支援が受けられる介護施設。その両面を兼ねそろえた第2アドナイ館は、生活感のある家庭的な環境で、入居者一人一人がその人のスタイルで生活し、必要な時にはすぐに手を差し伸べられる場所です。その人の望むことは何かを考えそれに応えていくことのできる私たちでなければなりません。

B. 2022年度 運営方針・運営計画

- ・理念や行動規範に基づいた職員の意識統一を図り、チーム一丸となって利用者本位の生活を支援する
- ・浜松地区の連携の中で、業務の効率化・合理化、危機管理等の仕組みを構築する
- ・それぞれの事業が自立して目標管理を行い、経営の安定化を目指す
- ・防災・感染症のBCPを作成し、職員に周知する

C. 2022年度 各事業計画

ケアハウス・特定施設

- ・職員間の相互理解を深め、チーム力向上に取り組み働きやすい職場を作る
- ・設備や備品を整え、入居者及び職員にとって安全、安心な環境を作る

通所介護ふらすワン

- ・適切なサービス提供及び利用者が自主的に取り組むことができるように、機能訓練の内容、業務の見直しを行う
- ・利用者の休みの傾向を把握し、空きが出ないように取り組むとともに、楽しくリハビリができる工夫をし、休まず来られるような環境づくりをする

居宅介護支援

- ・特定事業所加算算定により事業所収支の改善を図る
- ・事業所内会議・地域ケア会議等を通じた専門職同士の情報共有・連携強化により困難ケースへの対応に備え、ケアマネ個々のスキルアップを図る。

- ・ケアマネ4人体制から5人（非常勤）体制に変更することにより、より幅広いニーズに応えられるようになり、十字の園の在宅サービスの活用に繋がられるようになる

訪問介護

- ・システムを活用してサービス提供記録を電子化する事で記録業務の効率化を図り、訪問先でもiPadを使って情報の共有ができるようにする。
- ・十字の園のヘルパーを利用する事を喜びとして受け取ってもらえるように、接遇マナー研修を毎月開催する。
- ・担当者ごとのモニタリング会議をサービス提供責任者が定期的で開催し、どのヘルパーが行っても、ご利用者にとって必要な支援を提供できるようにする

げんきプロジェクト根洗荘

- ・役に立つ喜びを感じる事で生きる喜びにつながるように、レクリエーション活動やお手伝い活動を工夫する。
- ・SNSや地域のつながりを生かして発信力をアップし、地域社会に根洗荘の取り組みを知ってもらい、利用者増につなげていく。

D. 数値目標

事業名	ケアハウス	特定施設	通所介護 ぷらすワン	居宅介護 支援	訪問介護	げんきプロジェクト 根洗荘
利用定員数（人）	20	20	20		—	—
年間利用者延数（人） 居宅（件）、訪問（時間）	7,300	6,862	4,040	2,436	5,280	3,276
1日平均利用者数（人） 居宅（件/月）訪問（時間/月）	20.0	18.8	15.6	203	440	13.0
稼働率（%）	100.0	94.0	78.0		—	—
稼働日数（日）	365	365	259	—	—	252
単価（円）1人1日あたり 居宅（件）訪問（時間）	7,606	7,209	5,920	11,601	4,729	2,094
サービス事業収入（千円）	55,523	49,470	23,920	28,260	24,970	6,860
常勤換算職員数（人）		14.3	4.9	4.6		7.8
拠点事業活動収入計	188,458千円		職員数（常勤換算）		31.6人	

E. 研修方針・計画

- ・職員一人一人が自らの役割や課題を自覚し、必要な研修を受けられるよう計画していく
- ・ケアマネ更新研修、認知症実践者リーダー研修
- ・BCPに則した研修・訓練の計画を立てる

III. 事業種別・規模

ケアハウス・特定施設入居者生活介護事業（定員20名）

地域密着型指定通所介護（定員10名／午前午後2単位）

指定訪問介護、指定居宅介護支援事業所、げんきプロジェクト根洗荘

IV. 職員について

A. 配置計画

(単位：人)

職 種	配 置		男		女		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
本体 事業	施設長	1	0	0	0	1	0
	事務員	1	1	0	1	1	0
	相談員	1	0	0	0	1	0
	介護支援専門員	(1)	0	0	0	(1)	0
	介護職員	7	2	1	0	6	2
	看護職員	1	1	1	0	0	1
	機能訓練職員	1	0	0	0	1	0
	栄養士	0	0	0	0	0	0
	調理師・員	0	0	0	0	0	0
	医師	0	0	0	0	0	0
	その他	0	2	0	0	0	2
	小 計	12	6	2	1	10	5
在宅 事業	通所介護	3	3	1	1	2	2
	訪問介護 (自主デイ含む)	3	9	0	1	3	8
	居宅介護支援	4	1	2	0	2	1
	小 計	12	11	4	4	8	17
合 計	29	17	8	5	21	22	

* () 内は・・・相談員と兼任

B. 職員組織について(会議体・委員会等)

組織運営	浜松経営管理会議、第2アドナイ館管理会議、チーム会議、 デイサービス会議
委員会	安全運転委員会、感染症対策委員会、事故対策委員会、虐待防止委員会、 身体拘束委員会、安全衛生委員会、研修委員会、 コンプライアンス推進委員会、ユマニチュードケア推進委員会
外部を含む委員会	運営推進会議、苦情解決委員会

V. 年間事業(行事)計画

区 分	内 容
施 設 の 行 事	夏祭り、敬老祝会、運動会、クリスマス会など

VI. 固定資産購入、修繕等

- ・事業休止中の「あんき」の土地、建物等の維持費負担解消に向け、売却又は貸し出しができるよう検討する